エア・ウォーターグループ
Tateho
マグネシウムのタテホ

「現代の日本人はマグネシウム摂取不足」

健康な〝からだづくり〟に
マグネシウムは欠かせません

タテホだからできる
「水溶性マグネシウム」
からだへの浸透・吸収力が違う

さっと溶け、さっとはたらく
ライフマグ

NEW 新製品「飲むマグネシウム」シリーズ
栄養機能食品（マグネシウム）

タテホ化学工業株式会社

商品に関するお問い合わせはこちら
TEL 0120-560-744
（受付時間9:00～17:00　土日・祝日を除く）
WEB http://www.tateho.jp/j

エア・ウォーター株式会社

UD FONT 見やすく読みまちがえにくい ユニバーサルデザインフォントを 採用しています。

VEGETABLE OIL INK 環境に優しい「植物油インキ」を使用しています。

エア・ウォーター株式会社

第16期（中間）
株主報告書
2015年4月1日 >> 2015年9月30日

for Shareholders

AIR WATER Report

「NEXT-2020 Ver.2」の最終年度として経営目標を確実に達成し、「2020年度1兆円企業ビジョン」の実現につなげてまいります。

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループではこの2015年度の上半期、産業ガス関連事業は、自動車、鉄鋼、建設などに回復の遅れが目立ち、想定以上にガス供給の数量が伸び悩みました。また、ケミカル関連事業は、原油価格の下落に伴う市況悪化が続き、厳しい状況で推移しました。

一方で、医療関連事業は、高度医療分野に焦点を合わせ着実に事業の強化を図りました。エネルギー関連事業においても、新規顧客獲得など徹底した増販増客で環境変化に強い事業体質を構築しております。農業・食品関連事業は、独自のバリューチェーン構築が進捗し、順調に推移しました。そのほか、海水事業、物流事業など「ねずみの集団経営」を担う事業群も成長軌道を維持しました。

この結果、2015年度第2四半期の連結業績は、売上高が3,231億3千万円（前年同期比100.9%）、経常利益が170億5千8百万円（同102.8%）、親会社株主に帰属する四半期純利益が126億7千5百万円（同124.8%）となりました。

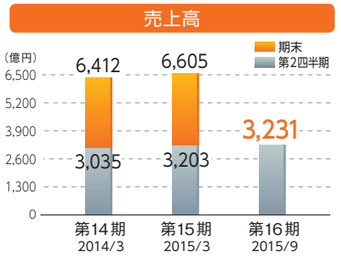
当社グループでは、中期経営計画「NEXT-2020 Ver.2」の最終年度として、同計画に掲げた「産業ガス事業の事業構造強化」、「地域戦略の強化」、「人にかかわる事業の拡大」、「M&Aによる新展開」の4つの重点課題を着実に推進しています。そのうち、産業ガス関連事業については、国内における地域事業強化で市場を掘り起こし、国内製造業の設備投資機会に着実に応えていきます。また、「人にかかわる事業」のひとつである医療関連事業においては、高度急性期医療分野をターゲットに、医療設備・医療サービス・医療機器の3事業を有機的に連携させ、当社グループならではの価値やサービスを提供し事業成長を加速させていきます。このほか、事業拡大に向けた設備投資を活発に行うとともに、ケミカル、農業・食品、エネルギー、その他事業などの分野において引き続きM&Aを積極的に実施し、事業領域の拡大と新たなシナジー創出を図っていきます。

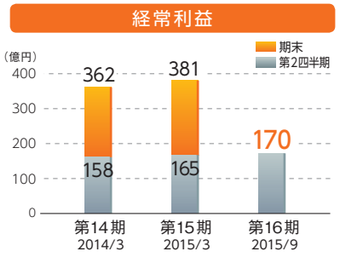
こうした取り組みにより、2016年度からスタートする新中期経営計画「NEXT-2020 Ver.3」にその成果をつなげながら、長期経営ビジョンである「2020年度1兆円企業ビジョン」の実現を目指してまいります。

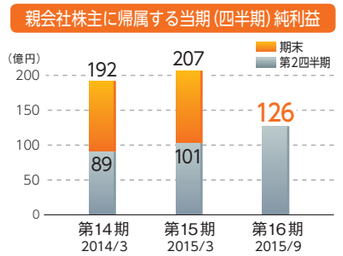
株主の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

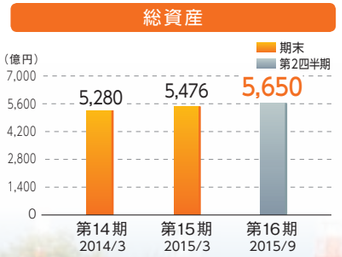
代表取締役会長・CEO 豊田昌洋

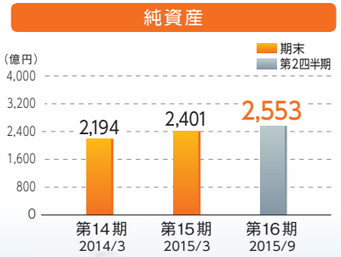
連結業績ハイライト

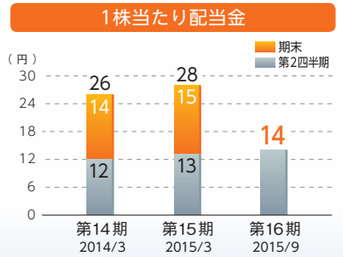


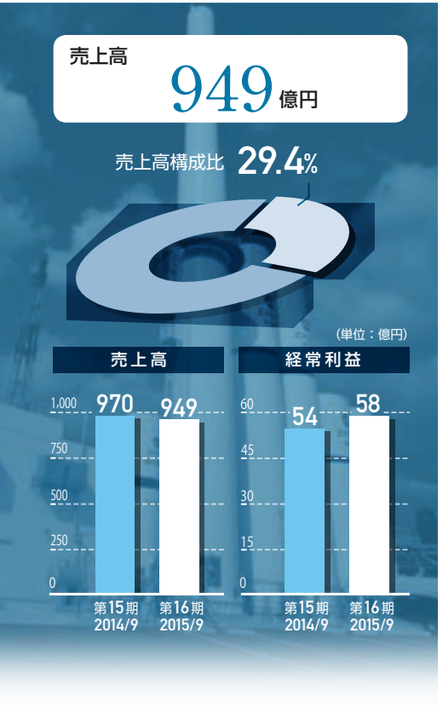






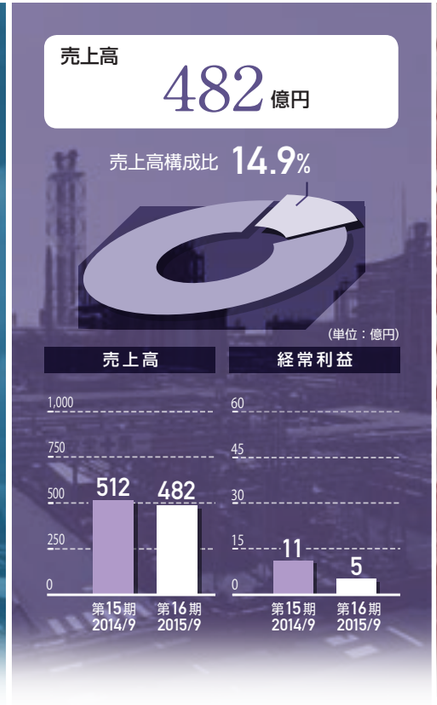






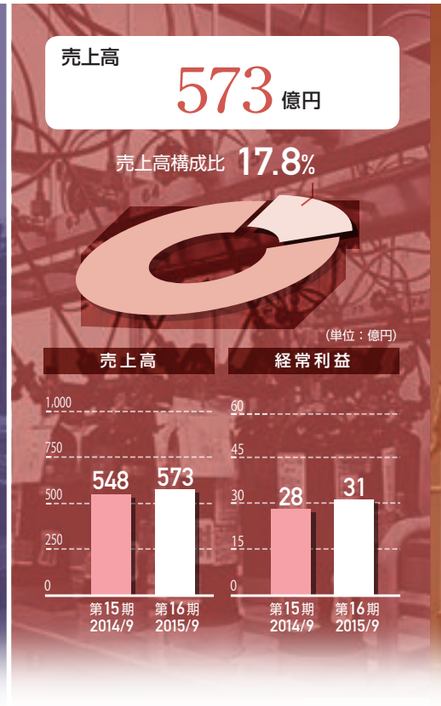
産業ガス関連事業

- 化学、半導体、電子部品、造船向けのガス供給が順調に推移。
- 高炉の減産や、自動車・建設などの持ち直しの遅れが、ガス供給の回復に影響。
- 国内製造業の設備投資が緩やかに回復し、ガス供給設備工事が増加。
- 電気料金の値上がりによるガス製造コストの上昇に対し、高効率プラントへのリプレースなど合理化を推進。



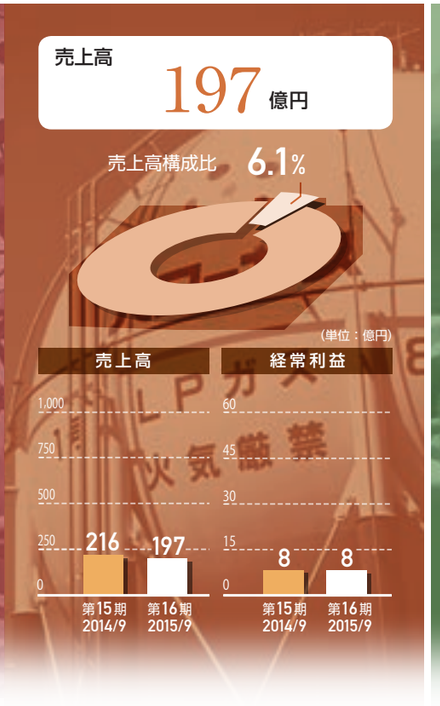
ケミカル関連事業

- コールケミカルは、原油価格下落に伴い、基礎化学品の主力である粗ベンゼンの販売価格が低下。
- ニードルコークスやナフタリンなどのタール蒸留事業は、世界的な需要減少と市況の低迷を受け、非常に厳しい状況。
- 本年6月に、川崎化成工業(株) を新たにグループ化し、更なる事業の拡大を図る。



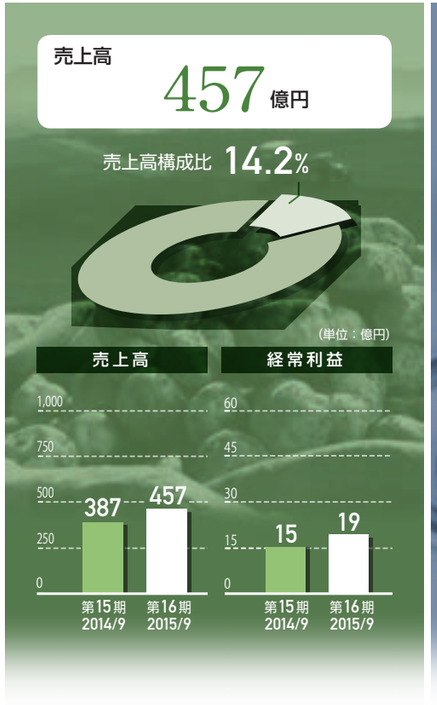
医療関連事業

- 医療用酸素は、新規病院の獲得に注力し、着実に数量が増加。
- 病院設備工事は、高度医療分野に焦点を合わせ、付加価値の高い提案を推進。
- 医療サービスでは、受託滅菌の新規獲得に努めるとともに業務の効率化により収益が改善。
- 医療機器は、新生児・小児向けの人工呼吸器や高気圧酸素治療装置の販売が堅調に推移。



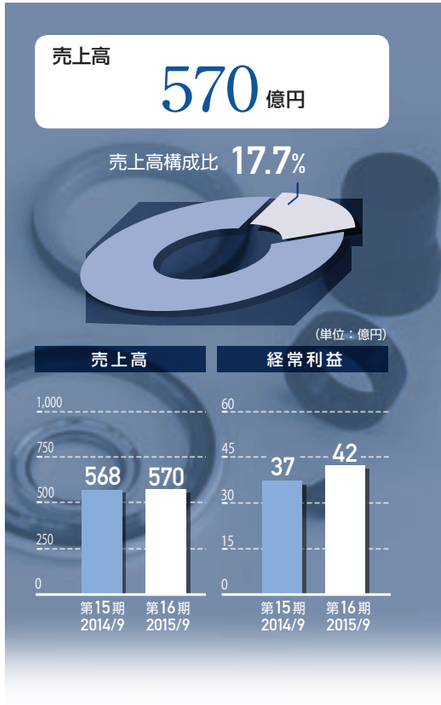
エネルギー関連事業

- LPガスは、原油価格の下落により在庫評価に影響が残ったものの、LPガスへの工業用燃料転換活動を推進し、新規大口顧客の取引が拡大。
- 灯油は、夏場の気温影響から消費が増加したことに加え、LPガスとの付帯販売による顧客拡大と効率的な仕入調達の工夫により堅調に推移。



農業・食品関連事業

- ハムデリカ・冷凍食品事業は、主力の生ハムが量販店向けに拡大、冷凍ブロッコリーが外食チェーン向けに新規採用されるなど、総じて堅調に推移。
- 飲料事業は、需要期である夏場以降の低気温による影響を受け厳しい状況。
- 農産・加工事業は、青果流通における生鮮品の好市況を背景に順調に推移。



その他の事業

- 塩事業は、コストの効率化や肥料用塩化カリウムの増販などにより、順調に推移。赤穂工場のバイオマス発電が、本年度より営業運転を開始。
- マグネシア事業は、高級電磁鋼板用マグネシアが好調に推移。
- 物流事業は、農業関連荷扱量の増加や食品物流の配送・倉庫業務の効率化等により順調に推移。

暮らしに身近な産業ガス［ アルゴン編 ］

国内最大の製造能力を有し、産業分野に幅広く貢献

鉄鋼やエレクトロニクス、自動車など、ものづくりにおいて必要不可欠なアルゴン。
産業ガスサプライヤーとして、アルゴンの製造能力が国内最大である当社では、
最大の製造拠点である鹿島工場に最新鋭の大型深冷空気分離プラントを建設。
本年7月から営業運転を開始し、さらなる安定供給に努めています。

溶接用シールドガス
「エルナックス(ELNACKS®)」使用例

Industrial Gas

「なまけもの」が産業分野で重要な役割を果たす

アルゴンは、空気中に0.9%程度とわずかに含まれる希ガスの一種です。語源であるギリシャ語の「怠惰な」「なまけもの」の意味にあるように、他の物質と反応しない不活性な物性をもち、その特徴は高温・高圧下においても同様です。この物性を活かし、ステンレスをはじめとする金属精錬や半導体基板材料であるシリコンウェハーの製造における雰囲気用途などに使われています。このほか、自動車や造船、光ファイバーなど幅広い産業分野で重要な役割を果たしています。

なかでも、アルゴンの代表的な用途である溶接においては、国内最大の供給量を誇る溶接用のシールドガス「エルナックス」を当社で製造しています。「エルナックス」は、当社の深冷空気分離プラントから独自技術により、アルゴン96.5%、酸素3.5%の高純度混合ガスとして採取され、この混合割合が、溶接不良を起こすスパッタ（溶接時に飛び散る微粒子）やピット（溶接表面にできる小さな穴）をほとんど生じさせず、高品質な溶接を可能とします。

このほか、アルゴンは、近年、省エネ住宅向けに脚光を浴びています。複層ガラスの中空層内に封入するガスとして使われ、空気と比べ熱伝導率が約30%低いため、断熱性能が向上。寒冷地でも暖房効果を高め、より快適な暮らしを提供しています。

その希少性や物性から、酸素や窒素に比べ付加価値が高い産業ガスであるアルゴン。当社は、産業ガスサプライヤーとして、幅広い産業分野にアルゴンをお届けしています。

アルゴンの用途

金属精錬

半導体・
エレクトロニクス

安定供給をベースに国内製造業の発展に寄与する

アルゴンは、深冷空気分離方式で酸素や窒素を製造する際に併産されています。当社では、グループ会社を含め、国内8拠点でアルゴンを製造し、国内最大の製造能力を有しています。とりわけ最大のアルゴン製造拠点である鹿島工場では、このたび最新鋭の大型深冷空気分離プラント（8号プラント）を建設し、本年7月から営業運転を開始しました。これにより、酸素や窒素とともに、アルゴンにおいてもより一層の安定供給を図るだけでなく、高効率のガス製造が可能となるなど、今後も国内製造業の発展に寄与していきます。

当社では、アルゴンをはじめ産業ガスの安定供給をベースに、中期経営計画「NEXT-2020 Ver.2」のキーワードである「「成長」と「改革」への挑戦」を踏まえて、収益改善をはじめ産業ガス事業の構造強化に努めています。また、地域戦略の強化により市場を掘り起こすとともに、国内製造業の設備投資機会にも着実に応えることで、翌年度から開始予定の新中期経営計画「NEXT-2020 Ver.3」にその成果をつなげていきます。

アルゴンについて	
化　学　式	：Ar
外見、物性	：無色無臭、不燃性・不活性
沸　　点	：−185.7℃(1atm)
融　　点	：−189.2℃(1atm)
製造方法	：深冷空気分離方式
供給方法	：シリンダー供給、液化ローリー供給、オンサイト供給

鹿島工場 8号プラント

マグネシア事業

海の恵みを オンリーワン技術で製品化し、世界に、産業に、大きく貢献

海水に含まれる「にがり」から製造されるマグネシア。
産業分野のさまざまな場面で活躍するとともに、
今後も大きな可能性を秘めています。
当社のグループ会社である
タテホ化学工業のもつオンリーワン技術で、
マグネシア事業を世界展開しています。

マグネシア製品

独自の結晶コントロール技術で、トップブランドを確立

マグネシアは、酸化マグネシウムの別名で、耐熱性や熱伝導性、電気絶縁性が高いのが特徴です。この特徴の下、グループ会社であるタテホ化学工業が、独自の結晶コントロール技術をベースに、高級電磁鋼板やヒーター向けにマグネシア事業を展開しています。

特に、高級電磁鋼板向けに供給する焼鈍分離材用マグネシアパウダーは、同電磁鋼板の最終製品である電力変圧器の機能材料として貢献しています。あわせて、最高効率の省エネルギー型変圧器を造るうえで、タテホのマグネシアは必要不可欠な存在であり、トップブランドを確立しています。

2020年度にマグネシアセラミックの世界シェア50%超をめざして

もうひとつの主力事業で、マグネシアを原料とするセラミック事業については、本年7月にタテホが米国のオザーク・テクニカル・セラミックス社の事業を譲り受け、マグネシアセラミックの世界市場でトップサプライヤーをめざすタテホ・オザーク・テクニカル・セラミックス社が誕生しました。これは、セラミック用マグネシアの原料調達関係にあった両社の絆から生まれたものです。今後、タテホと新会社の両社がお互いの得意技術を駆使し、シナジー効果を発揮することで、5年後の2020年度にはマグネシアセラミックの世界シェアを50%超に高めていきます。

マグネシアセラミック製品

タテホ・オザーク・
テクニカル・セラミックス社

健康分野に進出する タテホの技術

一方で、この独自技術をベースに、消費者向けにも注力しています。生態必須ミネラルのひとつでもあるマグネシウムは、骨や歯の形成、神経や筋肉の興奮伝達といった点で重要な役割を果たしています。現代人は食生活の偏りなどからマグネシウムが不足しがちな状況にあるため、タテホでは、吸収力に優れた水溶性マグネシウムを製品化し、栄養機能食品「ライフマグ®」として、健康分野やスポーツ分野に提供しています。

グループ会社とのサプライチェーン構築で マグネシアを安定供給

タテホは、瀬戸内海の温暖な気候と奈良時代から塩業が続く街、「赤穂」が原点。海水から採れる「にがり」を原料にマグネシアの粉を仕立てて事業展開し、以降、50年にわたり、マグネシアの専業メーカーとして今日に至ります。現在、当社グループである日本海水が製造した「にがり」を原料に、高品質なマグネシアを安定供給できるサプライチェーンを構築。国内3工場、中国1工場、米国1工場から、世界に向けて製品をお届けし、売上高のうち輸出向けが50%以上を占めています。

＊　＊　＊

タテホは、2020年度の売上高を200億円とするネクストビジョンを掲げています。今後、オンリーワン技術をさらに進化させ、グローバル化をより推進していく中で、グループ間シナジーの発揮、人財の育成により、「やりがいのある面白い会社・魅力のある会社・成長する会社」を全社員で創っていきます。そして、マグネシアを通じて世界の産業分野へのさらなる貢献をめざしています。

■ 会社概要

会　社　名	タテホ化学工業株式会社
本社所在地	兵庫県赤穂市加里屋字加藤974番地
設　立　日	1966年8月13日
従 業 員 数	連結 380名 (2015年9月30日現在)
事 業 内 容	マグネシア事業、セラミック事業
国内関連会社	タテホセラミック株式会社
海外関連会社	大連達泰豪化学有限公司 Tateho Ozark Technical Ceramics, Inc.

タテホの原点、塩の街 赤穂

鹿島工場 大型深冷空気分離プラント営業運転開始

最新鋭の大型深冷空気分離プラント（以下、８号プラント）が当社鹿島工場（茨城県鹿嶋市）において竣工し、本年7月より営業運転を開始しました。鹿島工場は、新日鐵住金株式会社鹿島製鉄所内に立地し、製鉄所向けのガス供給を担うとともに、国内最大のアルゴン製造拠点として、幅広い製造業へ希ガスであるアルゴンの供給を担っています。また、酸素製造能力が35,000Nm^3/hを誇る当社最大の深冷空気分離プラントとして、この8号プラント稼働により、これまでにも増してお客様の操業に応じた安定供給と、高効率のガス生産を行うことが可能となりました。

酸素、窒素、アルゴンの一層の安全・安定供給を図ることで、これからも国内製造業の発展に寄与してまいります。

鹿島工場 8号プラント

株式会社九州屋をグループ化

当社は本年9月、株式会社九州屋（本社：東京都八王子市）の株式の55%を取得し、同社をグループ化しました。当社グループは、農業・食品事業を新たな成長の柱と位置づけ、生産・調達から加工・流通まで一貫した付加価値の高いバリューチェーンの創出を推進し、事業の強化・拡大を図っています。高品質な「こだわり野菜」で定評があり、青果専門店業界トップの同社がグループの一員となることで、このバリューチェーンに強力な販売網が加わり、暮らしに欠かすことのできない安全な野菜を、責任を持ってお届けする体制が整うこととなりました。

今後は、商品の調達から新商品の共同開発、さらに配送及び物流網の共同利用など多岐にわたった取り組みにより、独自のバリューチェーンを構築することで、これまで以上に安全で安定した食の提供に挑戦してまいります。

会社概要

会　社　名	(株) 九州屋
本社所在地	東京都八王子市越野24番1号
設　立　年	1976年 (創業1974年)
店　舗　数	全国90店舗 (2015年4月時点)
売　上　高	267億円 (2015年3月期)
資　本　金	277百万円
従 業 員 数	1,707名 (2015年3月31日現在)
事 業 内 容	百貨店・駅専門店ビル・食品スーパーにおける野菜・果物 (含ギフト) 専門店の運営、スーパーマーケット・惣菜店・野菜工場の運営

会社の概要

2015年9月30日現在

商　　号	エア・ウォーター株式会社
設　　立	1929年9月24日
資　本　金	32,263百万円
従 業 員 数	858名（連結：11,435名）
本　　店	札幌市中央区北３条西１丁目２番地
本社事務所	大阪市中央区南船場２丁目12番８号

株式の状況

2015年9月30日現在

発行可能株式総数	480,000,000 株
発行済株式の総数	198,705,057 株
自己株式数	2,604,390 株
単元株式数	1,000 株
株　主　数	11,638 名

大株主（上位10名）

株　主　名	持株数（千株）	持株比率（%）
新日鐵住金株式会社	10,000	5.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	8,785	4.48
三井住友信託銀行株式会社	7,936	4.05
JP MORGAN CHASE BANK 385632	6,874	3.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	6,326	3.23
株式会社三井住友銀行	6,196	3.16
エア・ウォーター取引先持株会	5,301	2.70
全国共済農業協同組合連合会	4,554	2.32
株式会社北海道銀行	4,113	2.10
株式会社北洋銀行	3,874	1.98

株主メモ

事　業　年　度	毎年４月１日から翌年３月31日まで
定時株主総会	毎年６月開催
基　準　日	定時株主総会　毎年３月31日 期末配当　毎年３月31日 中間配当　毎年９月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目４番１号 三井住友信託銀行株式会社
（事務取扱場所）	東京都千代田区丸の内一丁目４番１号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目８番４号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	0120-782-031（通話料無料）
（ホームページURL）	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

【特別口座の口座管理機関の変更に関するご案内】
当社は2015年12月1日をもって、旧相模ハム株式会社の株主様を対象とした特別口座の口座管理機関を、三菱UFJ信託銀行株式会社から三井住友信託銀行株式会社に変更いたしました。

当社Webサイトで各種情報を公開しております。
ぜひ一度ご覧ください。
http://www.awi.co.jp/